

若者は国の借金を押し付けられた かわいそうな世代なの？

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

-今回の数字-

約 1,100 兆円

(何の数字であるかは、後ほど紹介します)

約 1,100 兆円という数字は、何を意味しているのでしょうか。政府の債務残高を思い浮かべた人もいるかもしれません。政府（国）の債務残高は 2015 年 3 月末で 1,053 兆円あり、2016 年 3 月末には 1,167 兆円に達する見込みです。

政府の債務はいつまでも膨らませ続けることはできず、将来的には税金によって債務を減らしていく必要があるものと考えられます。その負担を担うのは、現在の若年世代（または、これから生まれる世代、以下同じ）ということになります。このことが「世代間格差」としてしばしばクローズアップされています。

では、若年世代は皆が過去の世代が残した巨大な借金を背負って、重い税を払わなければならない「かわいそうな人たち」と言えるかということ、必ずしもそうではないと思います。

今回の数字、約 1,100 兆円というのは、政府の債務残高であるだけでなく、実は、現在の高齢者世代が持っている金融資産の残高でもあるのです。若年世代は、この金額が相続や贈与によって高齢者世代から受け取ることも期待できるのです。

もし仮に、高齢者世代が現在保有している約 1,100 兆円の金融資産の全額が若年世代に相続・贈与されたとすると、若年世代はその遺産で将来の税や社会保険料の負担をカバーすることができます。つまり、マクロ的には若年世代の実質的な負担はほぼプラスマイナス 0 となります。

ただし、若年世代内の個々人を見てみると、事情は異なります。自分の親や祖父母からの相続・贈与額は人によって大きな格差が出てくるからです。

その一方で、所得税や消費税、社会保険料などは、個々人が親や祖父母から受け取った遺産の額とは関係なく徴収されることになるものでしょう。

政府の債務と高齢者の金融資産がともに約 1,100 兆円にも達している事実は、そう遠くない将来、現在の若年世代を二つに分ける可能性を示唆しています。重い税や社会保険料の負担を親や祖父母から受け取った遺産と相殺できる（またはお釣りがくる）人と、重い税や社会保険料の負担をそのままかぶらなければならない人に。世代間格差は、いずれ世代内の格差の問題になるものと思います。

高齢者の資産を相続・贈与により若年世代に移転することで経済を活性化することが政策として掲げられていますが、同時に、若年世代内の格差の問題についても真剣に考えていく必要があると思います。

今回の数字—1,100 兆円

高齢者が保有する金融資産

世帯主が 60 歳以上の世帯が保有する金融資産（金融負債を控除した純額）の推計値
(2015 年 3 月末時点)

(出所) 総務省「家計調査」(2014 年)および日本銀行「資金循環統計」(2015 年第 1 四半期、速報) をもとに大和総研試算

もう少し学びたい人へ

◆家計金融資産の内訳はどうなっているの？

→太田珠美・佐川あぐり・菅谷幸一・中田理恵「家計によるリスク資産への投資が増加」(2015 年 7 月 1 日)

http://www.dir.co.jp/research/report/capital-mkt/20150701_009878.html

◆財政健全化に向けた日本の取り組みはどうなっているの？

→神田慶司「新しい財政健全化計画の策定に向けて～ベースとなる内閣府中長期試算の検証」(2015 年 4 月 8 日)

http://www.dir.co.jp/research/report/japan/mlothers/20150408_009632.html

※本稿は、「週刊ダイヤモンド」2013 年 9 月 7 日号、22 ページへの寄稿を再構成したものです。

(次回は、8 月 17 日に掲載します)

以上